

## 第5講 構文解析

田中重人 (東北大学文学部教授)

[テーマ] 文の構造を解析し、読みやすさの評価と改善方法を考える

### 1 今回の課題

各自のパラグラフ課題の文章から、いちばん複雑な文を選ぶ。その文を構文解析したうえ、わかりやすく書き直す。

### 2 構文解析とは

**文 (sentence):** 文章のなかで、句点 (またはピリオド) で区切られたひとまとまりの部分。

**構文解析 (parsing):** 文の構成要素同士の修飾関係を分析すること。

**文節:** 自立語ひとつに0個以上の付属語が接続したひとまとまり。ただし、付属語とは助詞および助動詞、自立語とはそれら以外の全品詞をさす。形式体言 (こと・もの……)、形式用言 (ある・いる・みる……) は自立語とみなす。さ行変格活用動詞はひとつの自立語とみなす (名詞に「する」がついたものとは考えない)。複合動詞や連語はひとつの自立語とみなす。

文節に切りわけてみよう

- さよならだけが人生だ。
- 坊主が屏風に上手に坊主の絵を描いた。
- 国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。

**係り受け:** 文節間の修飾—被修飾関係。

例:  
道を一歩く      月が一沈む      目で一見る  
駅に一行く      家から一出る      早く一食べる  
頭が一痛い      屋根より一高い  
大きな一手      私の一本      すごく一大きい

**構文木:** 文節間の係り受け関係を図に表したもの。修飾する (係る) 文節を左に、修飾される (受ける) 文節を右において、係り受け関係を線で示す

例：これらの図を使って説明すると、学生は日本文における「主語」の不在をすんなりと理解してくれる。

構文木の、いちばん右の、枝分かれしていない部分を「根」(root) という。上の例でいうと、「理解してくれる」が根である。

**並列構造：** 文のなかに、文法上同格の要素が隣り合わせに配置されていることがある。このような場合、並列の要素を上下にならべ、四角で囲んで線で区分する。

例：調査は仙台と福島でおこなった。

例：私は〇〇を助手席に乗せ、車を走らせた。

### 3 単純な文

構文がある程度以上複雑になると、非常に読みづらくなる：枝わかれが多い、枝が長い、並列構造のなかに複雑な枝わかれがある、枝の先に並列構造がある、係り受けや同格関係が確定できない、など。

**対策：** 余計な文節を削る、枝を切り落として独立させる、並列構造の中身を小さくする、読点などの記号を活用する、注や箇条書きや表を活用する。

### 4 宿題

書き直し前後の文と、どのような理由でどう書き直したかを説明すること。